「イザヤの福音書」　イザヤ 40 章 1-11 節

2024.2.25　礼拝

序論）

先週、お話したように今日、読んでいただいた 40 章からイザヤ書の内容が大きく変わっています。どう変わっているかというと、前回読んだ 39 章までの箇所は、アッシリアの脅威と、【主】に信頼しなさいという呼びかけと、【主】を信じない者と【主】に敵対するものへのさばきが語られてきました。

対して、今日の 40 章からの箇所はバビロン捕囚という神様のさばきを前提としながら、その囚われの状態から救い出してくださるという【主】の福音が語られるようになっています。

今日、読んだ 40 章の前半はそのイザヤ書における福音の序章的な部分となっています。ただ、今日の箇所は 3 つの成就を包括している預言となっているので、人によって解釈が変わってくる箇所となっています。

じゃぁ、その 3 つの成就というのは何かというと、①「バビロン捕囚からの解放とエルサレムへの帰還」によって成就した部分と、②3-5 節のバプテスマのヨハネを指す預言のように「イエス様の時代に成就した預言」、③世の終わり、【主】イエスキリストが再臨されて、新しい天と新しい地が与えられたときに成就する預言　です。

１．バビロン捕囚からの解放による成就
２．イエス様時代の成就
３．世の終わりにおける成就

この３つの違う時代に成就する出来事が、一つ預言にまとめられており、さらに一つのことばが、バビロン捕囚からの解放を指しつつ、世の終わりの出来事を指している面もあるので、どの時代の出来事としてみるかによって解釈が変わってくる預言となっています。

恐らく、この預言を受け取ったイザヤとしてはこれからはじまるバビロン捕囚という問題があるので、この預言はバビロン捕囚による苦しみの期間からの解放を意味していると、受け取ったのではないかな。と思います。

しかし、今日に生きる私達は、この預言を【主】イエスキリストの時代に成就し、さらには世の終わりに成就する神様の約束として受け取っていきたいと思います。

償いの完了）
　まずは 1-2 節の部分をみていきたいと思います。

40:1 「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。――あなたがたの神は仰せられる――
40:2 エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償われている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを【主】の手から受けている、と。」

　前回のヒゼキヤの箇所で、ヒゼキヤがバビロンの使者に自分の財宝や武器を全部みせてしまったから、それらは全部、バビロンに奪われることになるよ。という預言がなされました。それは、要はバビロン捕囚のことをさしているわけですが、なんで、ユダがバビロンに滅ぼされて、バビロンに連れて行かれなければいけなかったかというと、結局、ユダの人たちも完全に【主】に信頼して歩むことができず、【主】に背いてしまったからです。だから、聖書は彼らがうけたバビロン捕囚は、神様の裁きの業であり、彼らの罪、咎のゆえにそのようになったのだと、そう教えているわけです。
　でも、神様はそんなユダの民たちにたいする慰めのことばをここで語られています。2 節「エルサレムに優しく語りかけよ」というのは、直訳すると「エルサレムの心に語りかけよ」という言い回しになっています。バビロン捕囚という民たちにとって絶望を経験することになるエルサレムの民たちの心に、本当の慰めとなる福音を伝えなさい。といわれたのです。
　そして、その福音とは何かというと、「苦役は終わり、咎は償われ、罪の代わりに 2 倍の祝福をうける。」という福音です。バビロン捕囚はユダの罪のゆえになされたことでした。でも、「その罪からくる咎は、神様によって償われ、彼らの苦役・戦いは終わる。」と宣言されているのです。しかも、ただ苦しみが終わるだけじゃなくって 2 倍のものを受け取る。これはつまり、バビロン捕囚の苦しみを拭い去ってあまりある祝福を神様から受け取れる。ということです。

　みなさん、神様に対する罪は私達を大きく苦しめ、その咎の責めはときにバビロン捕囚のような絶望の中に私達を置きます。でも、神様はご自分の民のためにその咎の償いをしてくださり、私達の苦しみを終わらしてくださるのです。そして、その苦しみを終わらせるだけじゃなくって、その苦しみからの解放以上の祝福を私たちに与えてくださる。それがここで語られている福音です。
　だから、【主】イエスキリストは私たちの咎を償うために十字架にかかられました。

そして、その十字架の贖いを信じ受け入れたものに対して、ただ罪が赦されるだけじゃなくって、神の子とされる祝福も与えられているのです。
　みなさん、これほどの慰め、これほどの福音はほかにあるでしょうか。
　私達はこの慰めを受け、そして、この慰めを人々の心に優しく語りかけていく指名が与えられているのです。

【主】の道をまっすぐにされる【主】)
　続いて 3 節から 5 節の部分を読みましょう。

40:3 荒野で叫ぶ者の声がする。「【主】の道を用意せよ。荒れ地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。
40:4 すべての谷は引き上げられ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい地は平らになる。
40:5 このようにして【主】の栄光が現されると、すべての肉なる者がともにこれを見る。まことに【主】の御口が語られる。」

　イエス様は、これはバプテスマのヨハネのことだよ。と言われました。確かにイエス様が神の国の福音を語られる前に、バプテスマのヨハネが人々に神の国と悔い改めを語り、それによって人々がイエス様を受け入れ、救われるために道を備えました。
　これはイエス様がいわれていることですから、この預言がバプテスマのヨハネのことを指しているのは間違いありません。同時に、バビロン捕囚からの解放という面でみてみると、4 節の「**すべての谷は引き上げられ、すべての山や丘は低くなる。曲がったところはまっすぐになり、険しい地は平らになる。**」というのは、ユダの人たちがエルサレムに戻ることを妨げていたバビロンが打倒され、ペルシャの王キュロスによって、エルサレムに戻るための道が用意されたことを指しています。
　神様はこのように私達が【主】のところに戻るのを邪魔するものをすべて打倒して、平にして、そして、【主】のところにまっすぐに戻ることができるようにしてくださるお方なのです。だから、イエス様が十字架にかかって死なれたとき、神殿の至聖所、神様の臨在があるところに至る道を妨げている神殿の幕は真っ二つに切り裂かれて、神様へ続く道が作られました。
　だから、このイザヤ書における福音の 2 つ目は、私たちが【主】のところへいくための道を、【主】ご自身が、まっすぐに備えてくださるということです。私達が【主】の栄光を見ようとするとき、それを邪魔する働きというのは多くあります。罪の誘

惑であったり、具体的な妨害や攻撃であったり、でも、神様は谷を引き上げ、山を低くされるように、私達が【主】につながるためのすべての障害を全部取り去って、まっすぐに私達が【主】に繋がれるようにしてくださるのです。
　そして、その道こそが、「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」といわれた【主】イエスキリストご自身です。
　キリストは私達の苦しみを終わらせるだけじゃなくって、私達が神様の栄光をみることができるように、神様のみもとへまっすぐに通じる道となってくださいました。

永遠の神のことば）
　そして、この 2 つの福音の約束は消してなくなることはありません。6 節から 8 節を読みましょう。

40:6 「叫べ」と言う者の声がする。「何と叫びましょうか」と人は言う。「人はみな草のよう。その栄えはみな野の花のようだ。
40:7 【主】の息吹がその上に吹くと、草はしおれ、花は散る。まことに民は草だ。
40:8 草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ。」

6 節の『「叫べ」と言う者』これは【主】ご自身です。【主】ご自身がイザヤたち預言者に叫ぶように命じています。では、何を叫ばなければいけないかというと、『**「人はみな草のよう。その栄えはみな野の花のようだ。**』つまり、人の栄光というのはいつか枯れてしまうものだ。ということです。これは時間が立てば物事は全部朽ちていくということを指しているのではありません。7 節には

40:7 【主】の息吹がその上に吹くと、草はしおれ、花は散る。

と書いているからです。『【主】の息吹』というのは『【主】の霊』と言い換えることができます。神様の霊が働くと人は簡単に朽ちてしまう。どんなに人が自分の栄光を誇っていたとしても、【主】のみ心しだいで、朽ちてしまう。
つまり、人はすべて神様のご支配の中にあり、永遠ではないということです。
でも、永遠のものがある。それが 8 節でかたられている**『しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ。』**ということです。

ユダを苦しめていたバビロンの栄光は、永遠にあるように見えたとしても神様の御手の中にありました。神様がそれをしおれさせ、散らすと決められたから、バビロンは衰退していったのです。
私達を苦しめるこの世のあらゆるものも、永遠につづくかのように思えたとしても、全部神様の御手の中にあって、【主】がその霊を遣わし、息をふっと吹かれるのならば、この世の力も権力も、すべてしおれ、散ってしまうものなのです。
でも、【主】がこの箇所で語ってくださっている福音。咎の償いがなされ、苦役はおわって二倍の祝福を得ることができる。神様のところにつながるまっすぐな道が用意される。というこの 2 つの約束のことばは、永遠に固くたつのです。
例え、世の終わりがきても、この約束はなくならないのです。
だから、私達はここで語られる福音を信じ続けることができるのです。

【主】のところに報いがある）
そして、神様は 9 節、10 節で、この良い知らせを伝える者に「声」をあげさせています。

40:9 シオンに良い知らせを伝える者よ、高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ、力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ、あなたがたの神を。」
40:10 見よ。【神】である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の御前にある。

ここで、良い知らせ。つまり、福音を伝えるものが三回「見よ」と叫ぶように命じられています。「見よ」っていうのは注目しなさい。ってことですね。
何に注目するべきでしょうか。
一つは、**「あなたがたの神を」（9 節）**・・・・つまり、「わたしたちの神を」見なさい。ってことです。
咎の償い、苦しみからの解放、二倍の祝福、そして、神様にいたる道。・・・この福音を約束してくださっている神様は、私達の神様なのです。だから、私達はこの神様を見なければいけないのです。

次に何を見よといっているか、**10 節『【神】である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。』**つまり「【主】が来て、支配してくださるのを見なさい」ってことえす。みなさん、私達の【主】は、私達のところに来て、私達を支配してくだ

さるのです。私たちのところに来られた【主】。それがイエス・キリストです。【主】は私達のところに来てくださったから、このお方はもはや遠い存在ではありません。【主】が私達を支配してくださっているから、私達が自分で自分を支配して頑張らなくていいのです。【主】の支配を受け、【主】の導きの通りに生きていけば、私達はバビロンからも、罪からも、サタンからも、すべての支配から勝利することができるのです。

　そして、3 つ目の「見よ。」それは『見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の御前にある。』ということです。私達のところに来てくださった【主】のところに、私達の報いが、報酬があるよ。とこの預言はいっています。

　そして、この報酬こそ、神の国です。

コロサイ人への手紙 3 章 24 節にはこのように書かれています。

3:24 あなたがたは、主から報いとして御国を受け継ぐことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。

　【主】のご支配をうけ、【主】イエスキリストに仕えるようになったら、私達は報いとして御国を受け継ぐものにされている。だから、私達はこれを「みな」ければいけないのです。みなさん、【主】のところに、私達の報酬である神の国がある。それをみなさんは見ていきておられるでしょうか。

　この世をみると色々な絶望があります。神様の福音は成就しないのではないか。約束は成就しないのではないか。そのように思えるときがあるかもしれません。

　でも、そのときに、私達は私達の【主】なる神を見、【主】が私たちのところに来てくださって、ご支配してくださることを見、その【主】のもとには神の国という報いがあることを見ていく。これが大切なのです。

羊飼いなる【主】)

　みなさん、【主】はなぜ、このような恵みを私達にくださるのでしょうか。それは私達の【主】、私達の償いをなし、苦しみから解放し、祝福を与え、【主】に通じる道を作ってくださった【主】は、羊飼いなるお方だからです。11 節を読みましょう。

40:11 主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、懐に抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。

これは私達にとって大きな慰めではないでしょうか。私達は罪ゆえに苦しみます。絶望を覚えます。でも、【主】はその苦役を終わらせ、償いをなし、二倍の祝福を与えてくださるのです。
そして、【主】イエスキリストによって私達が【主】のところにまっすぐつながる道をつくってくださり、すべての邪魔するものを取り除いてくださいます。

私達は【主】のみ心しだいで、草や花のように、しおれ、散ってしまいます。
でも、このイザヤ書の預言に込められている福音のことば、神のことばは、永遠になくならない、確かな約束なのだよ。と伝えています。

だからみなさん、どんなことがあっても、私達の【主】なる神を見、その【主】なる神様の到来とご支配を見、その【主】のところにある報い。神の国があることを

この世の絶望をみるのではなく、【主】を見て、【主】にある福音を見て、慰められていきましょう。